

令和6年度鳥取市こども未来会議 市長への提案 議事録

1. 日 時： 令和6年8月1日（木） 15時00分～16時38分

2. 場 所： 鳥取市役所7階 鳥取市議会議場

3. 出席者： 【こども議員】

高知莉衣 議員、金丸旺生 議員、藤松勇人 議員、上住芹南 議員、上住舞瑠 議員、
國政遙希 議員、土居奏太 議員、山家一華 議員、油谷美祐 議員、霜村優 議員、
松下心咲 議員、木村心咲 議員、尾崎令來 議員、平林暖也 議員、澤花音 議員、
青砥真穂 議員、田中悠貴 議員、山内環奈 議員、橋本美音 議員、植田晟司 議員、
若松遼 議員、 生田暖 議員、 山本菜都 議員、森田凪 議員、 久本悠加 議員、
岡崎瑛大 議員、中西湊都 議員、福田栞菜 議員、山本悠貴 議員、田中希望 議員

【鳥取市】

深澤義彦 市長、羽場恭一 副市長、尾室高志 教育長、森山武 部長、塩谷範夫 部長、
河井登志夫 経営統括監、山根陽一 部長、竹内一敏 部長、小野澤裕子 局長

【市議会議員】

西村紳一郎 議長、吉野恭介 副議長、柳大地 議員、坂根政代 議員、水口誠 議員、
谷口明子 議員、金田靖典 議員、浅野博文 議員、太田縁 議員、伊藤幾子 議員

4. 会議次第
- 1 開会
 - 2 こども議員紹介
 - 3 市長あいさつ
 - 4 議長あいさつ
 - 5 市長への提案
 - 6 市長あいさつ
 - 7 議長あいさつ
 - 8 閉会

5. 議事の概要

事務局

（開会）

それではこれより令和6年度鳥取市こども未来会議を開会いたします。

この鳥取市こども未来会議は、本市の将来を担う子どもたちがみずから考える鳥取市の姿について、自由に意見や思いを提案していただくものです。

本日は、鳥取市の東部ブロックの小学校児童30名が、学校での生活について、鳥取市の子育てについて、鳥取市の防災について、鳥取市のまちづくりについての4つのテーマごとに、みずからの意見を市長へ提案いたします。

事務局

(こども議員紹介)

まず、こども議員を紹介します。

【こども議員の紹介】

では、ここで深澤市長からご挨拶をいただきます。

市長

(市長あいさつ)

皆さんこんにちは。市長の深澤です。

今日は、鳥取市こども未来会議にこのように多くの小学生の皆さんにご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、今日大変お世話になっております東部小教研の先生方はじめ、各学校の先生方、保護者の皆様、そして西村議長はじめ鳥取市議会議員の皆様にご心より感謝申し上げます。

さて、皆さんご承知かと思いますが今我が国の日本の人口はどんどん減少、減ってきておりまして、大変な状況にあるということは、皆さんもご承知だと思いますが、2008年、平成20年の1億2808万人をピークとして、それまでずっと増えてきた日本の人口が急激に減少に転じてきておりまして、現在は1億2300人あまりでしょうか。これが先月の推計ですがピークから見ますと何百万人が減ってきているというような状況があります。

このままいきますと、2048年には1億人を切ってしまうんじゃないかと、そのような推計もされておりました。9913万人と1億人を切ってしまうというような状況が今懸念されております。

鳥取市の人口であります。2008年、平成17年に20万1740人。これが、一番多かった年であります。現在はこれが18万2000人あまりということでありまして。住民票の人口でいきますと17万9959人ということで、住民票では初めてこの6月末で18万人を切ってしまったと、このような状況があります。

そういった中で将来を担っていく子どもたちを大切にしていけると、こどもまんなか社会を実現していくということで、一昨年、令和4年の6月にこども基本法という法律ができました。

この法律では、すべての子どもたちが将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会を実現していくということと、子どもに関する施策、いろいろな取り組みを総合的に進めていくんだと。このようなことが内容になっております。そしてもう1つ大切なことがありまして、こういったことを進めていくにあたっては、当事者である子どもたちの意見をしっかり聞いて進めていくと、このようなことがこのこども基本法の中で、決められているところであります。

今日はそのようなことで皆さんからいろいろなご意見を、聞いてみたいと思っております。

それをこれからの鳥取市の施策にできる限り反映をさせていきたいと思っております。

先ほど、こども家庭局長より少しお話をいただきましたけども、今日は4つのテーマについて皆さんからご意見をいただくということであります。学校での生活について、それから子育てについて、防災について、それからまちづくりについてということで、4つのグループに、分かれていろいろな議論をされたということでありまして、私も今日は、どんなご意見をいただけるか大変楽しみにしているところであります。

どうかよろしく願いを申し上げます。今日はどうもありがとうございます。

事務局

続きまして、鳥取市議会、西村議長からご挨拶をいただきます。

議長

(議長あいさつ)

鳥取市こども未来会議のこども議員の皆様、ようこそ鳥取市議会へ。鳥取市議会議長の西村でございます。

皆様方に親しんでいただこうと、私の提案で、今日はしゃんしゃんポロシャツで議員みんな参加しております。どうぞよろしくお願いをいたします。

本日開催されますこども未来会議は、市内の小学校から集まれた皆様が、日頃から考えている鳥取市のことや、自分の思いを市長に提案していただく会議とお伺いしております。鳥取市の将来を担う皆様の、そのような積極的な姿勢は、議長としましてとても頼もしく感じるところでございます。これから皆様が暮らしている鳥取市に関心を持っていただき、充実した学校生活を送っていただけたらと思います。

終わりに、本会議をサポートしていただきました、学校の先生方をはじめとする、関係者の皆様方、そして議員各位、そして保護者の皆様に感謝を申し上げまして、鳥取市議会を代表しての挨拶といたします。

どうぞよろしくお願いをいたします。

事務局

それでは、これ以降の会議の進行は西村議長にお願いしたいと思います。

西村議長よろしくお願いいたします。

議長

(市長への提案)

これより市長への提案に移ります。

まず、小学校の生活についてをテーマに提案をいただきます。

高知莉衣 議員、

金丸旺生 議員、

藤松勇人 議員、

上住芹南 議員、

上住舞瑠 議員、

國政遙希 議員、

土居奏太 議員、

山家一華 議員、

油谷美祐 議員、

前へお進みください。

こども議員の皆様、提案をお願いします。

土居奏太 議員

國政遙希 議員

僕たちは、他校との交流がしたいので提案します。

なぜ提案したのかというと、鳥取市では他の学校との交流が少ないのでふやしたいと思ったからです。

1つ目は中学校、高校に行ったときに、友達が作りやすいので、今のうちに交流をしておく、知っている人と出会い安心できると思ったからです。

2 つ目は、前期の 6 月の 1 ヶ月間に 1 回、後期の 9 月の 1 ヶ月間に 1 回、他校と一緒に行事などを楽しむことが必要だと思います。

3 つ目は、協力する力、コミュニケーション能力を身につけることが必要だと思います。なぜかという社会に出たときに役に立つからです。

僕たちはこれから鳥取市のなかでやっているイベントを積極的に参加したいです。

ぜひ、他校との交流を増やしてください。これで終わります。

山家一華 議員

私の提案はスマイル月間の期間を延ばすことです。

6 月の 1 ヶ月間はスマイル月間でいじめを減らすことを中心に、運営委員会などが色々な取り組みをしています。実際その期間では、他の人の良いところ紙に書く取り組みで、他の人の気持ちをよく考えるようになったり、いい所をまねしたりする意識が全体的に高まっていると感じています。

また、学校の終わりにする帰りの会では、いいこと見つけをしますが、スマイル月間の間はいいこと見つけの発表が特に多かったと振り返ります。ですが、スマイル月間が終わってしまうと、その効果は消え、小さな喧嘩が多く起きようになってしまうのが現状です。私はこのようになってしまうのはスマイル月間の期間が短いからだと考えています。

なので、その期間を延ばして、スマイル月間にはいいことがたくさんあるので、その効果が長く続くようにしてほしいと思っています。そうすると、みんなが仲良く楽しく学校生活が送れるし、さらに大きないじめを減らすことにも繋がると思います。

私の提案はこれで終わります。

高知莉衣 議員

私の提案は、いじめ、虐待を防止する取り組みを増やしてほしいです。

ネットで調べてみると、全国的な小学校では、いじめのようなことを言われていると思っている小学生が 64% という現状があります。それから、虐待では同じ学年の友達から虐待のようなことをされていると相談されました。そこから私は、虐待への大人の関心を増やしたり、ポスターを作ったり、いじめや虐待に関するアンケートを定期的に行ったりし、悩んでいることや、誰かに話したいことがある人が、先生やスクールカウンセラーの方と接する機会を増やして、身近にすることが大切だと私は思います。

これで私の提案を終わります。

藤松勇人 議員

中学校区共同の遊びをテーマにしたイベント企画、イベントを開催してほしいです。

理由は、小学校から中学校に進学するときに、多くの場合、幾つかの小学校から多くの生徒が集まって中学生になります。中学校では慣れない環境の中、多くの初めて出会う同級生とちゃんと友達になれるだろうかと心配でいっぱいの中、多くの中学生が悩んでいたと思います。

そこで、中学校区で共同の遊びをテーマにしたイベント企画を定期的に行うことで、中学校入学前に他の小学校区の人々とあらかじめ知り合っておくことで、新中学生の不安を減らし、スムーズな新生活を送れると思います。他の学校と一緒に佐治に行ったり、他と一緒にいくことでもっと仲良くなれると思います。1 年に 4 回だけでもやり、みんなの知っている鬼ごっこや複雑なルールがない遊びをしたらいいと思います。足の不自由な人も、運動が苦手な人も楽しめる輪投げなどをしてみればいいと思いました。

これで終わります。

金丸旺生 議員

僕は、校則の見直しについて提案します。

僕は憧れのサッカー選手の髪型を真似しています。小学校では髪型について問われることはありませんが、中学校では校則によって様々な制限があります。例えば、髪の毛が眉毛にかかってはいけないという校則や、ツーブロックにしてはいけないなど、髪型について定められていて、中学校に進学するときには髪型を見直さなければなりません。SDGsの17項目の中にも挙げられているジェンダー目標を目指すこの時代に、今の校則はふさわしいのでしょうか。

僕は今日の提案にあたり、校則や学校の決まりで疑問に思うことを6年生にアンケートをとりました。その結果、43%の人が校則や学校の決まりに疑問を持っていることがわかりました。男女両方とも前髪が眉毛にかかってはいけない。小学校の通学帽が男女で分けられていることなど、たくさんの疑問が挙がりました。そしてそのような疑問を先生にぶつけたことがない人が70%もいました。もう少し自分たちの考えを先生にぶつけてもいいと思います。

先ほどのグループワークで話し合い、髪型以外にもシャープペンを使ってはいけないことや、子どもだけでお使いや交通機関などを使ってはいけないのは、なぜかという意見をいただきました。僕たちの集団生活を守るルールが必要だけれど、納得できていなくても、諦めている人も多いのかもしれませんが。僕も、誰もが自分らしくいるために、校則を見直してみてもいいのでしょうか。

僕の提案はこれで終わります。

上住芹南 議員

上住舞瑠 議員

プールの授業を安全にできる環境を考えていきたいです。

今はプールサイドがコンクリートで熱いです。ニュースで火傷をした人がいると聞きました。また暑くて熱中症が心配です。暑かったり、雨や雷で授業ができないこともありました。でも水泳の授業は自分の命を守るために重要だと思います。なので、安全に水泳ができると良いと思います。なので、僕は、産業体育館のように屋根のあるプールが良いと思います。

また、藻が生えないプールにしてほしいです。ぬるぬるしてプールの中で滑ったりしたことがあるからです。

そして、コンクリートの壁や地面なので怪我をする心配があるので、壁や地面を安全な素材にするとプールの授業が安全にできると思います。

これで終わります。

油谷美祐 議員

私はAIやタブレットに頼りすぎずに、昔の学校生活を残したいと思っています。

AIなどの情報技術が進み、教科書、また未来では教師までAIになってしまうかもしれません。どんどん便利になってきています。このデジタル時代、これからは避けられません。だから、学校でその問題や危険さを実際にタブレット等を使って学ぶことも大切だと思います。ですが私は、すべてAIやタブレットに頼りすぎることは反対です。

江戸時代上方では、みんなで読んだり書いたり、そろばんを教えたりして学んでいたそうです。例えば、そろばんも今は計算機があるからしなくていいと思っている人がいるかもしれませんが、そろばんは計算ができるだけではなく、集中力などの様々な面で力がつきます。私も実際にそろばんを続けていて楽しいし、生活でも役に立っていることが多いと思います。五感を活性化するためにも、そろばんを取り入れて

ほしいです。

また、教科書はデジタルよりもアナログが良いと思います。デジタルだと荷物も減り書き込みしやすいですが、酒井邦嘉 東京大学教授によると、考える前にすぐ検索を学習だと勘違いしてしまう。デジタル化された教科書の内容は記憶に非常に残りにくいとおっしゃいました。つまり、デジタルだと考えることが減り、頭に残りにくいのです。

また、アナログだと健康にもよいという点があります。私も実際、画面をずっと見ていたときに目が疲れたことがあります。文部科学省 令和 3 年学習者用デジタル教科書の効果影響等に関する実証研究事業の成果については、小学校の中高学年の 4 割が、目、首、肩の疲れや痛みを実感しました。つまり、身体にも影響を及ぼす場合があるのです。

掃除も機械に任せず、雑巾で一生懸命磨くことが大切だと思います。雑巾で一生懸命磨くことで、心も磨くことができます。汚れが綺麗になると、自分の達成感が湧いたりすっきりします。

人手不足の中、すべて A I や機械に任せる気持ちもわかりますが、できるだけ昔のような学校生活も取り入れてほしいというのが私の意見です。知識を得るためにタブレットを使い、考えることはみんなでするなどの向き合い方も考えることが大切だと思います。

以上で小学校生活について提案を終わります。市長さん、教育長さん実現するようよろしくお願いします。

議長

こども議員の皆様は、お席にお戻りください。

深澤市長。

市長

はい。

それでは、こども議員の皆様から、何点か、ご提案も含めてお尋ねもあつたと思います。

それぞれお答えをさせていただきたいと思います。

まず、土居、國政議員から、他の学校との交流を増やしてほしいと。その理由は、中学校に進学したときに、スムーズにその中学校生活に移行していける、安心できるというようなことであります。

また、コミュニケーション能力、協力していく力をつけていくことに繋がるのではないかといったご提案もありました。

とても素晴らしいご意見だと思います。

特に小学校から中学校に行きますと、友達もみんな変わったり、学校生活も様変わりするので少し不安になったり、そういうこともありますので、小学校のときに、他校の皆さんといろいろな形で、今、スポーツ交流等は、多分やっておられると思いますけれどもいろいろな形で交流をしていくということはとても素晴らしいことだと思いますので、これは教育委員会の方になりますけれども、そのような機会が増やすことができないかというようなことも、教育委員会の方とも話し合って皆さんの意向に沿えるような、そのような取り組みをして参りたいと思います。

それから山家議員からは、スマイル月間、これは 6 月だけで 1 ヶ月でありますけれども、これは延ばしてはどうかと。

いいこと見つけ、それがこの月間がすぎると少しか、なくなってくるのではないかと、効果が長く続くようにするためにも、この月間を延ばしたらどうかというようなご提案であります。

やはり、みんながそれぞれお互いにいいところを見つけ合っということは、いじめの防止や、楽しい小学校生活、良い学校生活に繋がっていくと思いますので、そのような月間、月間でなくても、1 年通して、そのようなみんなのいいところを見つけようというような意識を持っていただくということは、とても大切なことでありますので、このスマイル月間を延ばすというのがいいのかあるいは他の形で、何か同じような取り組みができるのか、これは学校の先生方のいろいろなお考えもあろうかなと思いますので、こういったご意見をいただいたということを、教育委員会を通して各学校にお伝えをして、できるところから取り組んでいただくということになろうかなというふうに思います。

また、高知議員からは、いじめ、虐待を減らす取り組みを増やしていくべきではないかと。大人の関心を増やしてポスターを掲示したり、それからスクールカウンセラーに接する機会をもっと増やしていくべきではないかというようなご提案もいただきました。

いじめについては 64%の小学生の皆さんが体験してるというようなそういったデータ等もお示しをいただいたところでありますが、いじめや虐待、これはみんなでなくしていくんだと、そういった強い気持ちを持って取り組んでいくということで、必ずなくしていけるというふうに思っておりますし、そのように思って取り組んでいく必要があると思っております。これからも、鳥取市としても、そういったいじめとか、そういったことが起こらないような、そのような環境をしっかりと作っていくということが必要であると思っておりますし、もしそのようなことがあったら、速やかに対応していく。そのようなことが求められると思いますので、皆さんと一緒に、いじめがなくなるよう、鳥取市としても取り組みたいと思います。

また、藤松議員ですね、遊びをテーマとしたイベントを増やしていくべきではないかと。いうことと、それから先ほどのようなご提案と少し共通するところがありますけども、多くの校区の生徒が中学校で一緒になるということで、中学校区でイベントを行ってはどうかというようなご提案であります。そのことによって、中学校での新しい生活への不安を減らすことができる。というようなことをご提案いただきました。

また、足の不自由な方、また運動が苦手な人もできるような、そのような、例えば輪投げとかですね、そういうことをやってみたらどうかといったご提案をいただきました。
とても素晴らしい提案をいただいたところであります。

小学校のときに 1 つの中学校区、また将来、近い将来一緒に勉強をしたり生活をしていくと、そのような他校の皆さんといろいろな形で交流を深めていくという機会を、できる限り、いろいろな形で、持つことができないか、そのようなこと、また教育委員会の方とも相談しながら、取り組んでいきたいと思っております。

それから金丸議員からは、校則の見直しをしたらどうかとか、具体的な例として髪型とかシャーペンを使ったら、いけないとかそのようなことがいろいろあるけれども、そのようなことについてちょっと疑問を感じるんだというようなことであります。もう少し、自分たちの考えを、先生にぶつけてもいいんじゃないかなと。いうことであります。

また一方では、集団を守るためには、ルールが必要だとしっかりとその辺りも触れていただきました。

やっぱり自分らしさを、みんながしっかり実現できてそれをお互いに認め合うということは、とても重要なことであります。

また一方では、校則というのは、先ほども触れていただきましたように、皆さんを守っていくというようなことも 1 つの理由といいますかね、校則があるその理由だと思いますので、その辺りどのようにバランスをとりながら、自分らしさを、自己を表現といいますか自己実現を図っていくのかというようなこと

を考えていくということだと思いますし、自分たちの意見を先生方にぶつけていく、それは大いにやっていただきたいと、このように思っておりますので、いろいろな疑問があったり、不思議に思ったり、おかしいと思うような方は、日々、学校でも、先生に遠慮なくぶつけていただきたいと、聞いていただきたいと、このように思っております。

それから、上住議員、芹南さん、舞瑠さんのふた方から質問をいただきました。

安全に水泳ができるようにと、プールサイドのコンクリート等も少し熱くなったりとか、そういうことがあるので、例えば産業体育館、屋根があるそのようなプールもいいのではないかと、藻が生えないし、そのようなところがいい。

それから、プールの周辺、安全な素材を用いると、安全なプール事業ができるのではないかと、このようなご提案でありました。

今各学校にプールがあるわけでありますけれども、例えば、これを産業体育館のような屋根がある、1年中使用できるようなプールで事業を行うということも1つの選択肢としてあるのではないかと考えておりまして、実はそのようなことも教育委員会と検討してみたいと思っております。安全で、それから楽しく、そのような、プールでの水泳についての事業ができるようにと、そのような環境をどのようにこれから整えていくのかということは課題だと思いますので、今日のご提案いただきまして早速検討に入らせていただきたいと思っております。

それから油谷議員から、A Iだけではなく昔の方法も、やはりこれは捨てがたいと、そろばんを例に挙げていただきました。

タブレットも必要であるが、すべてをA Iで対応していくということは反対であると。そのようなご意見をいただきました。

そろばんのメリットとして集中力がつく、計算だけではなくて、五感を活性化するためにも、やっぱりアナログというのは、必要なんだというようなご意見だったと思いますが、私もその通りだと思います。

デジタル化の社会、D Xの推進ということで、すべてをデジタル化して、便利にして効率化を図っていくというような1つの流れがあるわけでありますけれども、やはり人間として、アナログのそろばんが代表的なものだと思いますが、デジタルだけではなくて、アナログの良さというのはあると思います。そのようなものも、やはり学校の中で取り入れていく。あわせて、それもいろいろな形で事業の中でも考えていくということは、これから必要なことであると思っておりますし、デジタル化が進んでいく中で、そのようなことの重要性、大切さもやはり今ちょっと考えてみるということも必要だと思いますので、すばらしいご意見いただきましたので、早速、それをまた今後に生かしていきたいと思っております。

以上です。

議長

次に、鳥取市の子育てについてをテーマに提案をいただきます。

霜村 優 議員、

松下心咲 議員、

木村心咲 議員、

前へお進みください。

こども議員の皆様、提案をお願いします。

霜村 優 議員

僕が提案するのは公園についてです。

公園を大きいものをふやしミストをつけてほしいです。

僕が遊んでいる公園は小さくて遊具も3つしかありません。しかも年齢制限でそのうちの2つが使えないのであまり遊べません。

そこで小さい子から中高生まで遊べてボールを使って遊ぶ場所、鬼ごっこなどの走る遊び、遊具がたくさんある場所の3つのエリアに分かれた公園がほしいです。僕の他にも同じ意見の友達がいるのでそんな公園がほしいです。公園を設置することでみんなが楽しく過ごせると思います。

これで、提案を終わります。

松下心咲 議員

私が提案したいのは、今ある施設に子どもが気軽に集まって交流し、様々な体験ができる場所を増やしてほしいということです。

なぜかという、最近共働きが多く、子育てに関わる時間が取れない家庭が多くなってきているから、このような場所が増えると、家庭への負担が少なくなると思うからです。

また、私たちもそのような場所があると、友達と交流したり、体験したりすることができて、楽しく過ごすことができると思うからです。

そしてそのような場所が、各校区に1つずつあると、家からでも簡単に通うことができるし、親が送らなくても行くことができるからです。

例えば、施設を作るのではなく、今ある施設に子どもが気軽に利用できるような場所を作ってほしいと思っています。また、このような場所が増えると、安心して子育てができるだけじゃなく、子どもも楽しく過ごせるまちになると思います。

だから私はこの提案をします。これで子育てについての提案を終わります。

木村心咲 議員

私が提案したいのは、親が夜遅くまで帰ってこない家庭や共働きの家庭の数を調査してほしいということです。

なぜかという、仕事の種類によって、家に帰る時間が様々で、夜も家に帰れない家庭もあり、みんなが安心して学童などに預けることができないからです。テレビで夜の学童クラブみたいなものがあることを知り、鳥取市にもそのような場所があると良いと思いました。

最初から施設を作るのは難しいと思いますが、今の鳥取市の現状を調査することで鳥取市に、どれだけの人が困っているのかがわかると思います。そうすることで、どの人も安心して子どもを預けられる施設を作る第一歩になると思ったからです。

これで提案を終わります。

議長

子ども議員の皆様は、席にお戻りください。

深澤市長。

市長

3名の方から子育てについてということでご提案をいただきました。順次お答えをさせていただきたいと思います。

まず、霜村議員からは、公園の整備についてのご提案であります。

大きいものをたくさんふやしてまたミストをふやしてほしいというようなことでありますし、また遊具がちょっと少ないのではないかと、遊べる遊具が3つのうち2つだというようなこともご紹介をいただきました。

小さい子どもから大きな子どもまで遊べる、そういった公園が必要だと、楽しく過ごせるとそのような場所としても公園の整備が必要ではないかというようなことであります。

鳥取市にはたくさんの公園、いろいろな公園がありまして、公園愛護会の皆さんにその整備等をお願いしておりまして、それを市民の皆さんに広く活用していただいているところでありますが、なかなか、いろいろな制約もあったりするのではないかなと思いますけれども、やはり町の中に、公園というのは例えば、災害が発生したときの、一時的に緊急に避難する場所としてもとても重要な役割があります。

そして、皆さんが、伸び伸びと遊んだり、友達と交流したり、そのようなとても大切な場であると思っておりますので、これからも、例えばミストも、これだけ暑い日が続きますと大変ですので、そのようなことも考えますと、増やしていく必要があるのかなというふうに思っておりますし、これから、皆さんが遊んで楽しく過ごせる場所として公園の充実を図っていきたいと思っております。

それから、松下議員からは、子どもたちが気軽に集まることができる、そのような交流ができる施設が必要ではないかと。

そのことが安心して子育てができるということに繋がるというようなことでご提案をいただきました。

また、新しい施設をつくるということじゃなくて、今ある施設を、活用していけばいいのではないかと、すばらしいご提案もいただいたところであります。

やはりご両親、例えば保護者の皆さん、働いておられるということで学校から帰っても、皆さんだけでお過ごしになられるというような時間もあるかと思えます。その中では、学童保育、放課後児童クラブ等も各地域にありまして、それぞれ活用していただいているという実態もあるかと思えますが、やはり今ある施設を上手に使いながら、皆さんが安心して過ごしていただけるような、そのような居場所というのはこれから、鳥取市として各地域にいろいろな形で放課後児童クラブも含めて確保していくということは、とても大切なことであるというふうに思っております。

一気にこれを増やしていくということはなかなか難しいと思いますけれども、とても重要なことについてご提案をいただいたと思っております。

また木村議員からは、共働きの現状の調査をしていくべきではないかということと、それから、夜の放課後児童クラブ、これもテレビ等で知ったということで、そのような施設も鳥取市として必要ではないかというようなご提案でありました。

保護者の皆さんが夜も働いていらっしゃる、そのようなご家庭もあるかと思えますが、現段階ではなかなか夜間の放課後児童クラブというのが、今、鳥取市には難しいと思いますけれども、そのような必要もあるのではないかなと思っておりますので、また、これにつきましても研究をさせていただきたいと思っております。

以上です。

議長

ここで鳥取市こども未来会議を一時休会します。会議の再開は15時50分とします。

議長

鳥取市こども未来会議を再開します。

続いては、鳥取市の防災についてをテーマに提案をいただきます。

尾崎令來 議員、

平林暖也 議員、

澤 花音 議員、

青砥真穂 議員、

田中悠貴 議員、

前へお進みください。

こども議員の皆様、提案をお願いします。

平林暖也 議員

僕は避難訓練を増やしたほうがいいと思います。

理由は、避難訓練の回数を増やして記憶しておく、避難するルートも覚えられて、いざというときにスムーズに避難できるからです。避難訓練では大体が地震をやって、津波とか火事とかの避難訓練は少ないから、地震、以外の避難訓練も増やして、地震と同じぐらいの回数にしてほしいです。それに、避難訓練をたくさんすれば、新しく安全なルートも生み出せます。

学校でするときは、何校時にやるとかそういう予告なしで、抜き打ちにした方がいいと思います。なぜなら、災害はいつ起こるかわからないからです。

最後は、避難した後に行くところ、避難所の場所と避難するタイミングとかを、事前に防災マップを使って知っておくとスムーズに避難ができると思います。

これで提案を終わります。

尾崎令來 議員

私の学校では防災グッズを作る学習があるのですが、3年か4年のときにやったきりで、作り方などもあまり覚えられていません。

そこで、防災意識を高めるためにも、それぞれの学年でスリッパや簡易トイレ、マスクなどの防災グッズを作る機会を増やし、自分で作ったグッズを使うと良いと思います。そうすれば、使い方の確認や、災害時の大変さ、グッズの改善点などもわかり、印象に残ると思ったからです。

防災グッズは身近にある新聞紙やダンボールなど、準備が簡単なものも多いので良いと思います。

これで私の提案を終わります。

青砥真穂 議員

私は避難所の設備の充実を提案します。

私の考える避難所の設備は、長期保存できる食料や水、プライバシーを守れるテント、低体温症を防ぐ毛布などです。

過去の災害で、設備が足りてない避難所で体調を崩し、災害関連死された方も少なくありません。少し前にあった台湾の震災のときは、すぐに避難所が開設され、温かい食事が出ました。そのことを知って私は驚きました。鳥取市ももっと早く開設できると思います。

どうしたらもっと早く開設できるか。例えば、日頃から防災を意識することも大切だと思います。普段から備えているものを点検することも大切です。設備を整えられたら避難が必要なときに、みんな安心できます。

私は今朝のニュースで、能登の大震災のときに、災害関連死された人は110人だったということを聞き

ました。防げる命があるなら、今できることで救うことにも繋がるかもしれません。

これで私の発表を終わります。

澤 花音 議員

私は避難所の確認を提案します。

私は避難所をあまりわかっていなくて、家で起きたときや学校で起きたときに避難する場所。くらいしかわかっていません。なので、避難所の確認を提案します。

いっどこで起きてもいいように、いろいろな場所を確認することが大切だと思います。例えば、家で起こったら、学校で起こったら、出かけた先で起こったらなど、いろいろな場所を確認すると良いと思います。そして、その確認を家族と一緒にマップを見て調べたり、学校の授業などでそういう時間をとってほしいです。出かけているときには、すぐ使えるスマートフォンで確認できるようにサイトアプリを見られるのがいいと思いました。

また、店にマップを掲示してもらい、いつでも確認できるようにしたいです。

これで終わります。

田中悠貴 議員

僕は市全体で避難訓練をすることを提案します。

理由は、市全体ではしたことがないので、した方が意識が高まっていいと思ったからです。実際にするときは、町区別で日にちを分けてやった方が小規模ですみます。

参加する人を増やすために、大勢の人が集まるイベントで避難訓練をするのも参加者が増えていいと思います。例えば、しゃんしゃん祭りや土曜夜市で訓練をゲーム感覚で体験できるスペースを聞くのも有効だと思います。

このようにいろいろなところで訓練して意識を高めるのがいいと思います。

これで終わります。

議長

こども議員の皆様は、席にお戻りください。

深澤市長。

市長

防災について5名の皆様からご提案をいただきました。順次、ご提案についてお答えをさせていただきますと思います。

まず平林議員からは、避難訓練の回数を増やしたほうがいいのではないかと。

そのことによって、いざというときにスムーズに避難行動がとれるということと、それから津波、火事等についても、地震以外でも、地震の場合と同じくらいの訓練が必要ではないかと。また、避難訓練をたくさん行うことによって、新しい避難ルートを確保すると、このようなことにも繋がるのではないかと。

また、訓練は抜き打ちがいいと。それようなことをご提案いただきました。併せて鳥取市の防災マップも紹介をいただきました。ありがとうございました。

避難訓練につきましては、鳥取市はいろいろな形で行っておりますし、また、各地区に自主防災会というのがございまして、それぞれの地域で自主防災会を中心に、地域の皆さんでいろいろな形で避難訓練に取り組んでいただいているところであります。他の市町村等に比べたら鳥取市は早い段階で、この自主防

災会等による、避難訓練等々について取り組んでいただいているというふうに認識をしておりますが、皆さんご承知のように今、全国で様々な災害が多発しております。それも頻発化、たくさん回数が増えてきているということと、激甚化、非常に大きな被害が発生をしているというようなこと、それから、いつどこで発生してもおかしくないというような状況があるわけでありまして、この避難訓練、防災訓練をこれからも、その内容を充実しながら、回数をふやしていくということは、とても大切なことではないかと。このように思っているところであります。

その際には、鳥取市の防災マップ等も参考にして活用していただければ大変ありがたいと、このように思っております。

また、鳥取市では防災アプリというのを作っておりまして、これは日本語だけではなくて9ヶ国、多言語で対応できるような防災アプリを作っておりますので、そのようなものもダウンロードして、活用していただければ非常にありがたいというふうに思います。

これからもいろいろな形で、いざ災害が発生しても、できる限り被害を少なくするということにしっかりと取り組んで参りたいと。このように考えております。

また、抜き打ちの訓練がいいのではないかとということではありますが、あらかじめお知らせした方がスムーズに行く場合もありますし、実際に災害が発生したということと、ちょっと紛らわしいところもありますので、その辺は工夫しながら、それぞれの地域で訓練を行っていただければありがたいと思いますし、鳥取市としても9月10日が防災の日ということでもあります。これは全市的に、昭和18年9月10日の鳥取大地震を1つの教訓にしていこうということで、毎年9月10日に、鳥取市の防災訓練を行っておりますが、この防災訓練につきましてもいろいろな形で毎年行っておりますので、これもしっかりとこれから取り組んで参りたいというふうに思っているところであります。

是非とも皆さんも、防災に関する意識をまたお持ちいただきまして、災害対応していただきたいと思っております。そのことが被害を少なくしていくということに繋がっていくと思いますので、よろしくお願いいたします。

それから尾崎議員から防災グッズを自分たちで作ってみてはどうかと、改善点等もわかるしと、例として新聞紙を活用したものも、できるのではないかとということでもあります。

実際に新聞紙を活用して、避難所でスリッパにして使うというようなことも行っているところでもありますし、また皆さんにいろいろ工夫していただきましたら、身近にあるもので防災グッズが、いろいろなものがつくれるのではないかなと思いますので、また、そのようなものが、例えばこんなものができるなということであれば、教えていただきたいと思いますし、それを多くの市民の皆さんにまた、活用していただけると、そのようなことが、広がっていくといいなというふうに思っております。

また青砥議員からは、避難所の設備をさらに充実をさせていくべきではないかと。

体調を崩されて、災害関連死に繋がるとそのようなこともあるので、是非ともその充実を図るべきではないかということと、普段から備えをしっかりと行って点検をしていくべきではないかということで、台湾での地震の例、また、能登半島地震の例についてもご紹介をいただきながら、提案をいただいたところであります。

まだまだ我が国では、この防災に、災害等に対しての避難所の設営等について、改善を図っていくようなところは、たくさんまだあると思っております。イタリアでは、仮設のトイレとか、そういうものがすぐ来たりして、それから料理もフルコースで準備がされるというようなこともよく言われておりますし、また台湾でも、しっかりと避難所の充実が図られていると、他の国の良い例も参考にしながら取り組んでいかなければならないというふうに思っております。

避難所の設備の充実、これは一挙にはなかなか難しいわけでありますけれども、できるところから、充実を図っていくと。できる限り避難された方が、負担にならないように、体調を崩されないような、そのような工夫はこれからも続けていく必要があると考えております。

また、澤議員から避難所の確認をするということでご提案いただきました。

家、学校、出かけている時にと、災害は時を選ばず、いつ発生するかわからないわけでありまして、日頃からそのようなことを、想定しながら、備えをしていくということは、とても大切なことであります。

スマホのサイトについても、触れていただきました。

先ほどもお答えいたしましたように、防災アプリが鳥取市の方ではありますので、そういったものもまた、スマートフォン等で活用していただければ非常にありがたいと思っておりますし、この内容等についても、さらに充実を図るようなところがあれば、これから充実を図っていくことをしていきたいと、このように思っておるところであります。

それから田中議員からは、市全体での避難訓練をすべきではないかと。

また、町区別、町内ごとで、日にちを分けてやったらどうかといったご提案もいただきましたし、また全体で、町内会だけじゃなくて全体での訓練も必要であるし、例えば、しゃんしゃん祭り等で、ゲーム感覚でやってみたらどうかといったご提案もいただきました。

いろいろな形で日頃から訓練をしていくことで、いざ災害が発生したときの被害を最小限に食い止めるということになると思いますので、ゲーム感覚であるというようなことも、一部、今まで行っているところでもありますけれども、いろいろな形で、備えていくということはとても重要なことであります。

市全体、先ほど申し上げましたように、9月10日鳥取市防災の日ということで大掛かりないろいろな関係機関等にご参加をいただきましてやっておりますけれども、こういったものもテーマごとで、あるいは年度ごとで工夫をしながら、いろいろな形でやっていくということとあわせて、また各町内でも地域でも、自主防災会を中心にいろいろな訓練を行っていただきたいと、このように思っているところありますので、また皆さんもそのような、地域での訓練が行われる場合には、積極的に参加をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いを申し上げます。

以上です。

議長

次に、鳥取市のまちづくりについてをテーマに提案をいただきます。

山内環奈 議員、

橋本美音 議員、

植田晟司 議員、

若松 遼 議員、

生田 暖 議員、

山本菜都 議員、

森田 凪 議員、

久本悠加 議員、

岡崎瑛大 議員、

中西湊都 議員、

福田栞菜 議員、

山本悠貴 議員、

田中希望 議員、
前へお進みください。
こども議員の皆様、提案をお願いします。

山本悠貴 議員

僕は鳥取県の良さが詰まった科学館を作ってほしいという提案をします。

鳥取県にはあまりそういう場所が少ないため、実際に楽しめ、体験でき、学べる場所がほしいです。鳥取は砂丘が有名だと思うので、風紋や、しゃんしゃん祭りの歴史や、梨の歴史などを一気に見られる展示物があればいいと思います。さらに、砂丘の砂を使った工作や、小さなしゃんしゃん傘を作ったりするコーナーもあると、さらに良いと思います。

鳥取県は星取県とも言われています。星の綺麗な県です。プラネタリウムのような星の見られるコーナーがあると良いと思います。

鳥取県の良さを学べるだけではなく、鳥取の歴史を大事にできる心も生まれると思います。

これで提案を終わります。

橋本美音 議員

私は鳥取市の観光をもっとアピールしたいということを提案します。

理由は自然と人と食べ物が素晴らしいです。そのすばらしさを生かしたイベントを開催したり、東京や大阪のような都会で鳥取市のよさをアピールしたらいいと思います。

それとお金がかかってしまいましたが、CMを作ったり、サイトを作って、鳥取市のことを知ってもらいたいと思います。市民の皆さんに観光大使になってもらって、T i k T o k、I n s t a g r a m、Y o u T u b eなどにたくさん載せて発信してもらいたいと思います。

さらに鳥取市の絵はがきを都会の親戚に送ってアピールしてもらったらいいと思います。こうすることで住みたい、働きたい人が増えれば、経済が回ります。観光をアピールすることをきっかけとして鳥取市の経済が回ると思います。

これで提案を終わります。

山本菜都 議員

山内環奈 議員

福田栞菜 議員

植田晟司 議員

森田 凪 議員

私たちは、天候の悪い日でも安心して利用できる施設がほしいということを提案します。

現在は、わらべ館がありますが、室内で体を動かして遊ぶことができません。

さらに、天候の悪い日に体を動かして遊べる施設が少ないです。だから天候がよく変わる鳥取市には、天候の悪い日に遊べる施設が必要だと思います。

また施設の工夫としては、遊具や床などで怪我をする人がいるので、怪我をしないように、やわらかい素材を扱うなどして怪我をする確率を減らすことができると思います。危険なことなどをしている人がいないかみんなが安全に遊んでいるかどうかを、確認するために職員を配置したらいいと思います。

他にも、フロアごとに内容を変えることで、小さい子と大きい子はぶつかって怪我をすることや、ボードゲームとサッカーをしたい人が同じフロアにいれば、ボールがボードゲームをしている人に当たることなどがあるけど、フロアを分ければそんなことがなく、自分のやっていることに集中できます。

それ且つ、そこに学生が勉強や、教え合いながら宿題ができる自習室や、幼い子でも小学生でも遊べる場所などを作って、子供たちが交流できると、差別や1人の人が1人ではなくなると思うからです。

これで僕たちの提案を終わります。

中西湊都 議員

最近、鳥取県全体の人口が外に流出しています。

2007年に60万人を切り、今は約55万人になっています。僕はその人口流出を止めるために、レジャー施設を充実させて、鳥取市を魅力のある楽しいまちにしたいと思っています。僕は天候を気にせずに遊べる屋内レジャープールがほしいです。屋内のプールはありますが、楽しく遊べる屋内レジャープールは鳥取市にはありません。なので、みんなの夏が楽しくなるようなプールをつくることを提案します。

次に、鳥取で有名な砂丘や梨などをモチーフにした施設を増やしてにぎわっていて、楽しそうで存在感のある鳥取市にしていくことを提案します。

これで僕の提案を終わります。

岡崎瑛大 議員

僕の提案は2つあります。

1つ目は、電灯やガードレールをつけていないところにつけてほしいです。理由は、夜、川沿いの道路を通ったとき、電灯がなくて怖かったからです。

2つ目は、壊れているガードレールに修理をしてほしいです。理由は、ガードレールが壊れていると、もしものときに危ないからです。

だから僕はガードレールや、電灯をつけていないところにつけてほしいし、壊れていたら修理してほしいです。

これで、僕の提案を終わります。

久本悠加 議員

私は商店街を活性化させることを提案します。

昔はにぎやかで明るかった商店街が、今はもうやっていなくて、シャッターが閉まっているところが多いです。なので活性化するために、新しいお店を建てたり、それだけではなく、今あるお店を若い人や地域の人みんなで復活させたりしてはどうでしょうか。

このことにより、買い物や食べ歩きなど、人と人との交流を増やすことによって、楽しみができ観光客も増えると思います。

以上で提案を終わります。

若松 遼 議員

僕は歩道を増やしたり、広くして歩きやすくしてほしいことを提案します。

僕はこの夏休み中に学童に通っています。その途中には歩道がないところがあり、車や自転車とぶつかりそうになってしまいます。友達の通学路では、自転車と歩行者がぶつかりそうな場所や、おじいさんおばあさん、車椅子の人が通りにくそうな場所があるそうです。さらに、道が広くなると、多くの人が通れたり、子連れ、ベビーカーの人が通れます。

歩きやすくするためには、障害のある人も歩きやすくする必要があると思います。なので、点字ブロックも必要だと思います。これらの理由で、僕は歩道を増やしたり、広くして歩きやすくしてほしいことを提案します。

これで提案を終わります。

生田 暖 議員

私が提案したいのは、放課後に友達で集まって勉強する施設がほしいです。

私は友達と遊ぶときは、わらべ館などで宿題をしています。わらべ館で勉強できるスペースはライブラリーコーナーというところですか。ここは本を読んだりできるところでもあります。私たちだけのスペースではないので、勉強する人が多いと、他の人の迷惑にもなります。また、机や椅子の数が少ないということも困っています。

校区内には、県立図書館も近くにあり、自習室を開放していますが、私が友達と勉強しに行くとき空いていなかったりして、開放している曜日がバラバラで不便です。また、平日は大人が多く利用しているので、子供だけでは入りにくいのです。

このような不便な点があるので、小学生や中学生などを中心とした、気軽に勉強できるスペースがあればとても便利だと思います。

以上で提案を終わります。

田中希望 議員

私は、動物が捨てられない環境にしたいということを提案します。

まず、動物が捨てられる理由は、災害のときに避難所に一緒に入れない。次住むアパートに動物は駄目という決まりがあったり、保護団体が少ないことだと思います。それらの原因を解決するために、私たち人間だけではなく、動物の視点でも考えて、保護施設をふやしたり、動物OKの、アパートを増やしたり、動物も一緒に入れる避難所を作ると良いと思います。また、保護団体を増やしたり、犬も入れる公園を作ったりしたらいいと思います。動物にも人間にもやさしい鳥取市を作りたいです。

以上で発表を終わります。

議長

こども議員の皆様は、席にお戻りください。

深澤市長。

市長

13名の皆さんから、鳥取市のまちづくりについて、ご提案をいただきました。順次、ご提案についてお答えをさせていただきたいと思います。

まず、山本悠貴 議員からは、鳥取の歴史を大切にしていかなければならないではないかと、まちづくりについての歴史を大切にする視点ということでありまして、とても大切な、これはことだというふうに思います。

鳥取市には、本当に歴史、文化、すばらしいものがたくさんありますので、そのようなことを今一度、大切にしまちづくりということ、鳥取市も進めているところでもあります。中心市街地、それから各それぞれのエリアにもいろいろな歴史や文化がたくさんありますので、そのようなことに、皆さんも改めてまた、新しい発見をしていただきたいなと思いますし、それとあわせてそれをいかにまちづくりに活用していくかというような視点もとても大切なことでもあります。

すばらしいご提案をいただきまして、ありがとうございます。

それから橋本議員からは、鳥取のよさを、CMとか、例えばサイト等でPRをしていく必要があるし、YouTube等でも発信をしていく。

それから、観光大使についても考えていく必要があるんじゃないかと、絵はがきを都会の皆さんに配布することによって鳥取市をPRするといったご提案もいただきましたし、また、観光を、取り組んでいくことで経済が回っていくと、観光振興が経済の活性化に繋がるといったことも、改めて触れていただいたところであります。

まさに観光振興というのは、観光をこれから取り組んでいくことは、鳥取の経済を活性化させ、いろいろな産業の振興に繋がっていくということでありまして、このコロナ禍を経まして、これから鳥取のよさを、いろいろな手段で発信をして、多くの皆さんにお越しいただく、国内外からたくさんの方に、鳥取市のよさを感じていただくというような施策をこれから、進めていきたいというふうに考えているところであります。

いろいろな情報、発信の手段があると思います。そのようなものを、うまく活用して鳥取市のよさっていうのを、発信をしていくことによって、多くの皆さんに鳥取市に関心を持っていただく、実際にこちらにお越しいただくということになろうかなと思います。

特にこれから8月13日から15日までは鳥取しゃんしゃん祭りが第60回ということで、大きな節目のお祭りというふうになりますし、10月19日から22日までは、ねんりんピック、はばたけ鳥取2024ということで、ねんりんピックで選手の皆さん、観客の皆さん、関係者の皆さんたくさん鳥取にお越しいただくことになっておりますので、とてもいい機会だと思います。

このような機会に、鳥取のよさを知っていただくということが、とても重要であります。皆さんも、鳥取のよさをいろいろな方に、いろいろな形で発信していただければありがたいなと思っております。そのことによって、鳥取がにぎわい溢れる、そのようなすばらしいまちになっていくと思います。

それから次に山本議員、山内議員、福田議員、植田議員、森田議員と5名の方で共同して、ご提案をいただきました。

天候が悪くても、過ごすことができるような施設が必要ではないかと。その施設には職員も配置してほしいと。

それからボードゲームとかサッカーとか、ぶつかることもあるのでフロアを分けてぶつからないようにということで、非常に大きな施設を想定しておられるのかなと思いました。

また、自習室とか小さな小学生の皆さんも遊べるような、そういったフロアといいますか。スペースも必要ではないかということで、新しい施設が必要だというようなことで、ご提案をいただきました。

なかなかどれぐらいの施設をどこに作るのかというのは、十分、これは研究をしていく必要があろうかと思えますけれども、今鳥取市が進めようとしておりますのが鳥取駅の周辺に、そのような施設を考えたらどうかということで、今、鳥取市の駅前の辺りを新たにリ・デザインして駅前の空間を活用していこうと。そのような中で、人が集う、特に小さい子どもさんから大人まで、自由に集うことができるような、そのような施設とか空間を作ったらどうかということを今、具体的に研究して進めようとしておりますので、そのような、皆さんのご提案もその中で生かせる部分があれば、取り入れていったらいいのではないかなというふうに考えながら、ご提案を伺ったところであります。

また、中西議員からは人口流出が進んでいると、鳥取県が60万から55万になったということですが55万じゃなくて、新しいデータでは53万人ぐらいの人口と、いうことになっております。こういった人口減少を食い止めるためのレジャー施設、魅力ある施設、例えば屋内レジャープール等が、必要ではないかというように、具体的にご提案いただきましたし、砂丘とか、梨とか、鳥取の特性をモチーフにした、

そのような存在感があるものも必要ではないかというようなご提案もいただきました。

やはり人口がこう減っていかないようにということになりますと、若い世代の皆さん、特に 20 代前半の方が、県外に市外に転出されて、それで人口が減っていくというような、そういう特徴が鳥取市にはありますので、一旦、進学とか就職で市外に転居されてもまた鳥取がいいなということで、将来帰ってきていただける、そのようなまちにしていくなめにはやはり、鳥取市の魅力を高めていくということが必要であります。

そのような中で、新しい施設も必要だというふうに思いますけれども、なかなか屋内のレジャープールというようなご提案いただきましたけど、鳥取市だけではなくなかなかこういうものを、作っていくというのは、今のところ、ちょっと難しいのかなと思いますけれども、ご提案の趣旨は十分、理解させていただきましたので、鳥取市の魅力を高めていくと、そのような中で、必要な施設は何なのかというようなことも、引き続き研究をさせていただきたいと思います。

それから岡崎議員からは街灯やガードレール、特にガードレールについては、修理が必要なところは、修理をしてほしいと、危ないのではというようなことであります。

全くその通りでありまして、街路灯とか、街灯につきましても、必要なところにはそれぞれ国道、県道、市道ありますけれども、設置をしてありますけどまだまだ十分でないようなところもあります。

それから、街灯ということでこれは道路とは別に、各地域等での灯りになるわけでありまして、鳥取市もいろいろな補助制度を作っております、そのようなものを活用していただいて、各地域で街灯の整備等も行っているところでもあります。

そのようなことも引き続き進めていきたいと思ひますし、ガードレール等で修理が必要なもの、そのようなことについては、各道路の管理者、責任者の方で速やかに修理をしていく。ということが必要であるというふうに考えております。

それから久本議員からは商店街の活性化についてご提案をいただきました。

新しい店も必要だし、今ある店を、例えば魅力を高めていって、そのことによって観光客も増えていくのではないかと。このようなご提案であります。

全くその通りでありまして、特に中心市街地の商店街が少し、かつての、数十年前になりますけれども、そのような時代と比べると、少しにぎわいが少なくなっているということは感じるところでありまして、これを、またにぎわいをいかにつくり出していくのかということで鳥取市も今、いろいろな取り組みをしております。

例えばライトアップをしていくとか、鳥取城跡を含めてこの若桜街道等について、いろいろライトアップしていくということも取り組んでおるところでありますし、先ほど申し上げましたように、駅周辺の再生を今取り組んでいこうとしておりますので、いろいろな形で、新しい時代の新しいにぎわいが出てくるような取り組みをこれからも進めていきたいと思ひます。

若松議員からは、歩道を広くして歩きやすくすべきではないかと。

障がいのある方についても、歩きやすくそして点字ブロック等も敷設をしていくべきではないかと。いうことでありまして、鳥取市といたしましても、障がいのある方ない方、安心して歩行していただけるような、また、歩くことが楽しいと、そのような空間になるようにということで、順次今取り組みを進めているところであります。

歩道を広くするということは、工事が必要になりますので一挙にはなかなか難しいところがありますけれども、安全に歩いていただけるような、そのような道路に、順次していきたいと、このように考えてお

ります。

また、生田議員からは放課後に友達と集まって勉強できる施設がほしいと、わらべ館を利用しているが、なかなか空いていないときもあったり、子どもだけがちょっと入りづらいようなところがあるというようなことも触れていただきました。小・中学生が気楽に使用できるような場所、ということでもあります。

これも先ほど申し上げましたように、新しい取り組みを今進めておりますので、既存の施設も、小学生中学生の皆さんに、利用していただきやすいような環境にしていかなければなりませんし、また将来、鳥取市がさらに素晴らしいまちになるようにということで、この中心市街地の、またにぎわいを取り戻すようなそのような取り組みをしておりますので、友達と一緒に集まって、勉強していただいたり、過ごしていただけるような空間も、その中で何とか確保できるような、そういうことも検討していきたいと思います。

それから田中議員からは、動物が捨てられないような環境をとということで、保護施設等含めて、動物にも人にもやさしいまちづくりをしていくべきではないかというようなことでもあります。

またあわせまして、災害が発生したときにペットと一緒に避難できるような、そのような避難所が必要ではないかというようなご提案もいただきました。

これについては一部取り組んでおりまして、避難所等につきましても、ペットと同伴で、避難していただけるような、そのような避難所の開設をしていかなければならないというふうに思っておりますし、動物を飼って、それを途中で放置されるというようなことがないように、やはり動物と人とが共存できる、そのようなやさしいまちで、鳥取市はあるべきだと思っておりますので、そのことについても、これからも取り組んで参りたいと思います。

以上です。

議長

以上で市長への提案はすべて終了しました。

進行を事務局にお返しします。

事務局

西村議長、こども議員の皆さんありがとうございました。

最後に、鳥取市こども未来会議を総括して、深澤市長、そして西村議長に感想等いただければと思っております。

市長

(市長あいさつ)

はい。それでは感想ということでもあります。

まず 30 名の議員の皆さんからとてもすばらしいご提案をいただいたことに、まずもって感謝申し上げたいというふうに思います。

これから鳥取市がさらに力を入れて取り組んでいかなければならないというような、提案をたくさんいただきました。一挙になかなか実現していくというようなところ、難しいところがあるようなご提案もありましたけれども、できるだけ皆さんのご提案を今後の市政に生かしていけるようにしっかり努めていきたいというふうに思っております。

今日は 4 つのテーマについてそれぞれ皆さん、事前に議論をしていただいて、ここで、素晴らしい発表

をしていただきました。この4つの点は、いずれも重要な、そのようなテーマということでありまして、これからも鳥取市が力を入れていかなければならない。そのようなテーマであります。今日発表いただきましたご意見等につきましては、議事録のようなものをこれから作成するということでもありますので、また各学校で改めて皆さんのご提案と、確認をしていただける、そのようなことになるのかなと。このように思っております。

冒頭申し上げましたように、こども基本法というのがありまして、こども政策を進めていくにあたっては、当事者であります皆さん子どもたちの、皆さんのご意見をしっかり伺ってそれを政策、施策に反映をさせていくということが法律でも、しっかりと位置付けられておりますので、今日のこども未来会議を1つの基に、またいろいろな形で皆さんのご提案やご意見等を伺う機会をしっかりと持って、それを市政に反映させていきたいと思っております。

ご参加いただきました30名の皆さん、そして、大変お世話になりました、保護者の皆さん、学校の先生方、鳥取市議会の議員の皆様、重ねて感謝申し上げます、感想といいますか、ご挨拶に代えさせていただきます。今日はどうもありがとうございました。

議長

(議長あいさつ)

こども未来会議のこども議員の皆様、大変お疲れ様でございました。

こども議員の皆様の生きた声、そして斬新なご提案をお聞きすることができました。

大変充実したひとときを過ごさせていただきました。そして、この未来会議が、さらにブラッシュアップされて、今後とも続くことを私は強く、確信といいますか、また局長にお願いしたいなと思っております。やはり意見を言って、それに答えていただけるというこのステージがある限り、続けていけたらなというふうに感じました。

鳥取市議会も開かれた議会を目指しまして、また、親しみやすい議会、そして、より身近な議会を目指して取り組んでおります。議会だよりの発行であったり、議会インターネット中継への取り組みであったり、様々な取り組みをしております。今日のこども未来会議を1つのきっかけとしまして、ちょっとでも、鳥取市議会に興味を持っていただけたら幸せでございます。

まだまだ暑い日が続きます。皆様方が、快適な学校生活が元気に送れますことを願いまして終わりの挨拶といたします。ありがとうございました。

事務局

(閉会)

ありがとうございました。

以上で令和6年度鳥取市こども未来会議を閉会します。